

第88号

し ら さ ぎ

新春を寿ぐ

事務長 石河 良一郎

新年おめでとうございます。

新春をご家族お揃いでお迎えになられましたことを心よりお慶び申し上げます。

まず初めに、あゆみが丘学園とそ
の利用者の保護者の皆さん、そして
平素からお世話になっております関
係者の皆さんにお詫びをしなければ
なりません。昨年の11月9日付け
の各新聞紙上にあゆみが丘学園で
の結核の集団感染の記事が掲載さ
れました。10月初旬に利用者一人
に結核の罹患者が確認されまして
からは、京都府丹後保健所の指導を
受けまして、施設を挙げて感染拡大
の防止に努めました。全利用者、全
職員に対しての血液検査の結果、12
人の陽性反応の人が出ましたがこ
れ以上の他人への感染の不安は無
く、入院をされていた利用者も11月
中旬には退院され、速やかに対応す
ることができました。しかし、この
ような事態に至りましたこと、そし
て多大なご心配やご迷惑をお掛け
しましたことにつきまして、各般に
亘る関係者の皆さんに衷心よりお
詫び申し上げます。

今後におきましては、今回の事案

を貴重な教訓として二度と繰り返すことのないように、また、利用者の皆さんへの支援の質の向上と安全・安心・安楽の確保へとつなげていきたいと考えています。

毎回厳しい寒さが続きますが、鍋物の美味しい季節です。その鍋物の食材として欠かせないものに蒟蒻があります。ノンカロリーでヘルシーな食べ物として人気も高く様々な料理によく使われます。もう30年も前のことですが、蒟蒻作りに挑戦した時のことです。ふと、「生の蒟蒻芋はどんな味がするものだろう？」との思いが頭をよぎり、小さな一切れを口に入れてみました。さあ大変！口の中が大火事になりました。大バニツクです。酒を飲んだって、砂糖を舐めたって追いつかない。舌が痺れて、言葉では表現できないような状態になったことを覚えています。その昔、あのような変てこな美味しくもなんともない芋を食べるということを考えた人に頭が下がるとの思いがしました。この発想には改めて敬意を払うものです。今の混沌とした、不確かな、彷徨える時代にこそこのような発想が必要な

だと改めて思っています。蒟蒻を食べる時に、ふと思いつくことのある懐かしい記憶です。

あゆみが丘学園も開設以来29年を経過し、利用者皆さんの高齢化・病弱化・そして重度化に伴う諸課題が顕著に表面化してきています。ある障害者福祉統計資料によりますと、平均寿命が延び、加齢とともに咀嚼や嚥下の機能が低下するなど、支援の困難さが切実な問題として取り上げられています。さらに、ガン罹患の増加が指摘されています。知的障害者の場合、自覚症状を適切に訴えることが困難なこともあり、ガン発見を遅らせてしまう原因にもなっているといわれています。また、アルツハイマー型認知症の早期発症のリスクの高さも取り上げられています。最近、あゆみが丘学園でも入院をされる利用者の症状を聞いていますと、似たような症例を感じることがあります。利用者皆さんの健康を考えます時、日常関わる現場の支援する職員の知識・技術が大きな鍵になるといえますし、その習得のための積極的な取り組みと意識の向上が不可欠であると感じています。

本年もあゆみが丘学園に対しまして、ご理解とご協力を、さらに一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い致します。新年のご挨拶とさせていただきます。

納涼祭をふりかえって

生活支援員 井田孝茂

今年も恒例となっております「あゆみが丘学園納涼祭」が8月2日（金）夕刻から夜にかけて行われました。回数も今年は20数回を越えるまでになりました。当日は雨が心配される中での開催準備となりました。数年前までは打ち上げ花火を盛大に打ち上げて地域の方々も楽しみにして頂いておりましたが規制が厳しく今年も打ち上げることができませんでした。花火の華やかさを補うかのように、模擬店をはじめステージでの出し物（ARASA（フラダンス）、ブルーエンジェルズ（キッズエアロビクス））および司会のマスク・ザ・ピーナッツ氏等々の演技で、またゲームコーナーの遊技など大いに盛り上がりました。ゲームコーナーにおきましては時間途中で景品が無くなる程の参加を頂きました。また模擬店でも大部分を完売させて頂く程の繁盛ぶりでした。

地域住民のみなさんが思いもよらず大変多数参加して下さいましてノーマライゼーション理念のもと、お互い交流が生まれてきているように感じられました。

これからの私達の課題としまして、一方方向の交流ではなく地域の各行事に参加させていただく事とか

出来る事は限られた微々たる事かもしれないかもしれませんが何か地域に奉仕出来る事を見出して積極的に行っていきたいものです。これからも、なお一層の地域住民の方々との施設利用者との隔たりのない、自然な行き来が出来る事を望んでおります。あゆみが丘学園納涼祭に参加下さいました皆様本当にありがとうございます。



9月20日のバス旅行

生活支援員 小西ゆかり



9月のバス旅行ではひらかたパークへ行きました。9月も下旬に入っていました。が、天気にも恵まれ日中は汗ばむくらいの暖かさとなりました。予定ではひらかたパークに着いてから昼食を摂り、それからグループ毎に分かれ、自由行動ということにしていたのですが、予定よりずいぶん早く現地に着いたため、バスを降りてすぐグループ毎に分かれ、それぞれ好きなアトラクションをまわりました。昼食でもそのまま各グループでパーク内の好きな所で食べる事となったので、利用者の方も好きなものを選び食べる事ができたのではないのでしょうか。乗り物にたくさん乗って楽しんだ方、あまり乗り物には乗らなかったけど面白い物を楽しんだ方、それぞれ楽しまれていたのではないかと思います。ひらかたパークで一日をゆったりと過ごすバス旅行となりました。参加して下さいた保護者の方、ボランティアで来て下さった中村さんありがとうございました。

ブナの木寮の歩みは、みんなの歩み

ブナの木寮 主任生活支援員 谷口宗浩

過去に発行された「しらすぎ」を読み返すと、平成に入って間もない頃から利用者の高齢化対策が、各施設の懸案となつていくとあります。運動不足や体重増加、生活習慣病など健康管理への不安など、高齢化への対策が問題となっていました。ただ平成5年頃は60歳を超えた利用者が5〜6名だったので、この先起こるであろう課題について、明らかに表面化しているわけではなかったと思います。そんな中数年にわたって切望された知的障害者の老人ホームとして、高齢者の生きがいと楽しく暮らせる場所として高齢者棟『ブナの木寮』が、平成8年4月に竣工されました。高齢者対策の一環として、全国のトップを切っけて建設の許可が下り……というように喜びに満ちた記



述から、当時の雰囲気は伝わってきます。しかし現実には、竣工間もない頃から厳しくせまっています。平成8年5月には、本館から移動された利用者慢性疾患が悪化し、病院で最期を迎え、学園葬でお見送りするということ。内容が掲載されています。さて、17年が経過した現在はどうでしょうか。状況は更に深刻さを増しています。入所されている19名のなかで、利用者の年齢は、80代が4名、70代が7名、60代が7名と、まさに知的障害者の老人ホームと言っていると思います。加齢とともに、体力、筋力、免疫力の低下、嚥下困難、誤嚥性肺炎をはじめとする様々な病気の発症、認知症と思われる症状など我々支援職員に様々な問題が、まさに今突きつけられています。今年10月と12月には、2名の利用者が誤嚥性肺炎で入院し、亡くなるという悲しいことがあり、忸怩たる思いを経験しました。しかしながら、日々の対応に追われて、ゆとりや温かみのない支援は望まれない



新人職員紹介

生活支援員 大下あかね



8月19日から働かせていただいたとおりです。今までは、尼崎市の障害者通所施設で、2年間支援員として働き、その後はホテルで勤務していましたが、支援員としてのやり甲斐や楽しさが忘れられず、地元でも一度障害者施設で働きたいと思いました。今では毎日利用者にお逢いできることが楽しく、また沢山の笑顔も魅力を感じています。笑顔で頑張りたいと思いますので宜しくお願い致します。

誕生者を祝う

生活支援員 井上俊文

開園当時から、その月の誕生者をお祝いしようと誕生会の行事を行ってきました。当初は昼食をはきんで、担当ホームが歌、劇等工夫を凝らして楽しい行事ではありましたが、利用者さんの外食がしたいという意見の増加に対応し、豊岡、福知山の範囲内で計画し今月は豊岡のガストに行き、ハンバーグ等自分の好きなメニューを注文し、美味しく食べました。それから、このとりの郷公園に行き、おそろく初めてのこのとりの飛ぶ姿を見たり、記念の写真を撮ったり、ゆつくりと時間を過ごしてドライブをしながら帰ってきました。利用者さんの高齢化が進み、体力的に参加できない人も増えていきますが、園から出て、いろいろな処に行きたいという想いは強く、誕生会に行き、それが明日から又頑張ろうという気持ちにつながっていかればいいと思います。又来年もこのメンバーで元気に誕生会に行きましょう。



三十年

主任生活支援員 岩雲浩二

当学園が開園して、今年で30年目に入ります。月並みですが、「もう30年！」と思ってしまう。昭和から平成。「精神薄弱者福祉法」から「知的障害者福祉法」から「障害者自立支援法」を経て、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」つまり「障害者総合支援法」へと変わり、それから法律の変革の波に当園もまれながらの30年目です。

30年を一言では語れませんが、とにかく利用者の方、その保護者の方々、そして職員も、随分と年輪を重ねたものだあと実感してしまいます。

泣いて、笑って、怒って、喜んで、色んな事に一喜一憂してきた30年でした。私たち老兵は10年もすれば姿を消しますが、次の世代の職員たちが、学園で生活される利用者さんと、これからの色んな歴史を作っていく事でしょう。願うなら、笑って、喜ぶことが、泣いて、怒る事よりも沢山ある事を望みます。さて、そうはいっても私もまだまだ現役、もう少し老体に鞭打ち、利用者さんの為に頑張ります！！

お知らせ

【新入所者紹介】

◎岡本治さんが平成25年12月1日に入所されました。
(わかたけホーム)

【ご逝去】

◎西村義一さんが平成25年10月12日にご逝去されました。

◎松本清作さんが平成25年12月14日にご逝去されました。

◎小松博さんが平成25年12月25日にご逝去されました。
謹んでお悔やみ申し上げます。

職員異動 平成25年6月18日、平成25年11月30日

【新職員】

◎大下あかねさんに平成25年8月19日より生活支援員をお世話になつていきます。

【退職】

◎河端広志さんが平成25年10月25日付で退職されました。

◎向仲登さんが平成25年11月10日付で退職されました。

◎泊利正さんが平成25年12月31日付で退職されました。

【育休復帰】

◎安里仁美さんが平成25年11月1日育児休暇から復帰されました。
(すみれホーム)

ありがとう、ボランティア

ボランティア委員会

10月5日、11月2日とこの秋2回ボランティアの皆様にお世話になりました。10月は夏に続いて2回目となる「男の福祉」さんに学園下斜面、ブナの木裏の草刈りをしてもらいました。職員の参加もあり、暑い日でしたが元気な利用者さんと共に行いました。活動後「男の福祉」の方と利用者の方が楽しそうにお話をしながらおやつを食べている風景が良かったです。

また11月は学園道路沿いの花壇整理、ブナの木裏の剪定を主に、なんと保護者11名、職員10名の参加で活動をしてもらいました。元気な利用者も参加し、日頃なかなか出来ないコミュニケーションがとれ、とても有意義な日となりました。また、多くの保護者の方より雑巾を頂き、園内清掃に使用させて頂いています。

学園へのボランティア活動へのご理解・ご協力ありがとうございます。来年度もよろしくお願ひします。



リサイクル作業

(アルミ缶・銅線・フルトッフ
ベルマーク・古紙回収)
ご協力いただいた方



平成二十五年六月十八日、(敬称略)
平成二十五年十一月三十日

安達酒店、安達電気、安達良史、新井孝弘、荒田ケイ、五十嵐屋商店、生野電気、石河侑、いととめEAT店、稲岡晴子、井野建設、岩佐利夫、梅田歯科医院、エナジールランド大宮、えびす電気工事店、エルクラブ・オオミヤ、大宮北保育所、大宮第一小学校、大宮南保育所、岡島三協製作所、岡田喜美子、岡田福治、オギノ電機、お茶のみ友だち、掛津区観光部、金子産業、京都日産自動車(株)、小池食料品店、河野哲朗、小笹ふさ子、小西デンキ、コマキデンキ、米トウtail、後藤鉄工所、笹岡昭義、笹岡儀和、サニアイランド、シラキ(株)、末次電気商会、隅倉住建、田崎書店、玉木明司、大同享子、大同宏子、でんき館やました、中村久美子、西田建設、畑中酒店、林範尚、BGRセンター、番場電気商会、日達利雄、平井電気、フリーク、フルーツ王国やさか、堀江栄志、堀敏雄、堀博昭、堀保彦、堀鉄工所、ホリロク(株)、マジカル、まるぜん書店野田川店、丸中観光バス、水口進、水口組(株)、峰山鉄工所(株)、宮尾倍行、矢野辰雄、矢野博、ヤマモト電化サービス、由利徳七、よぎ電工(株)

事務だより

平成二十五年六月十八日、
平成二十五年十一月三十日
(敬称略)

【寄贈】

糸井徳彰、井上酒店、今井久男、上川しづえ、上田孝一、小笠原嘉子、河島、鈴木愛子、たかた鮮魚、高橋正代、竹内暢夫、竹下節子、谷口多可枝、(株)玉岡、丹後大宮ゆう薬局、浪江圭一、野波義則、野村芳昭、服部仁、藤田進、松島敏成、萬代勇、向谷理恵、最上留美子、安田邦好、矢野辰雄、山口勇、山口きよみ、吉浪芳郎

【寄付】

鈴木愛子、西村仁伺

編集後記

昨年はいろいろな事がありました。悲しい事も多かったけど、気を入れて笑っています。神様、今年が良い年となりますように。

パン!!パン!!パン!!チャリン!!

